

あかり

AKARI

院長からのお知らせ

医師紹介、研修セミナーから
検査科、病棟案内（A3病棟）
薬局より、治験管理室より
リハビリテーション科、
療育指導室、制度の利用
再来診療のご案内、医療連携室
はじめて当院を受診される方へ
当院へのアクセス、イベント情報、本

院長からのお知らせ

日本病院機能評価機構の認定証交付について

このたび、当センターに日本病院機能評価機構の認定証が交付されました（7月23日付け）。この認定証は、医療の質、安全管理などの今日的医療水準を認証するものですが、評価機構の審査を受審することで、当センターの優れている点や改善すべき問題点が具体的に示され、病院の現状を客観的に把握することができました。職員一同、問題点の改善に努めました結果、認定証が交付されました。引き続き、安全で質の高い医療の提供に努めていきたいと願っております。

「メスキュード医療安全基金」の贈呈について

当センターに、平成18年度の「メスキュード医療安全基金」が贈呈されました。選定理由はてんかん患者のてんかんセンターへの適切な受診促進に役立てて欲しいとのことでした。現在、この基金をもとにてんかん情報センター（仮称）を開設すべく準備中です。

医療現場における医療安全対策の推進に幅広く役立てるため、平成14年度に、共英製鋼株式会社により、「メスキュード医療安全基金」が設置されました。毎年数件の団体、事業が支援を受けています。国立病院では初めてのことであり、大変、名誉なことと受け止めています。
（藤原建樹）

医師紹介

PROF I L E

下村 次郎

趣味：ほっつき歩き(犬の散歩に近い)
抱負：皆様の意向を尊重した治療を行います。

出身地：北海道

診療分野：小児のてんかん



日吉 俊雄

趣味：園芸、木工
抱負：生涯勉強の姿勢で診療に携わっていきたいと考えています。

出身地：静岡県

診療分野：てんかん



寺田 達弘

抱負：医学の発展への貢献

出身地：埼玉県

診療分野：神経内科、内科



病院の理念

「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」

専門職のためのてんかん研修セミナーから

てんかんをもつ小児に関わる専門職を対象として

去る8月24日(金)に、てんかんをもつ小児に関わる専門職を対象として第20回てんかんセミナー(「小児てんかんと発達障害」)を開催しました。ここでは、発達支援室が行った「てんかんをもつ子どもの発達支援」についてご報告します。

発作が抑制されていないてんかんをもつ子どもや発達障害を伴うてんかんをもつ子どもでは、学校生活においてさまざまな問題が生じています。例えば、てんかん発作が学校生活でみられると、学習の継続ができなくなったり発作後に眠気や意欲の低下といった行動がみられます。治療中に一過性に眠気、ふらつきや失調、気分の変容といった抗てんかん薬の副作用が出現し、学習に影響を及ぼすことがあります。特殊なてんかん症候群では持続性のてんかん性脳波異常により、国語や算数の学習困難がみられます。教師や養護教諭がてんかん発作や抗てんかん薬の副作用に対する知識が不十分な場合には、発作後に過度に庇護的になったり薬物の副作用の影響を必要以上に考慮して、学習を制限したりすることがあります。てんかんの症状に対する誤った判断により、体育やブールなどの運動、宿泊訓練や修学旅行といった学校行事への参加を制限してしまうこともあります。両親(特に母親)は、子どものてんかん発作に遭遇する機会が最も多いため、過保護や過干渉になる傾向があります。

これらの問題に対して、学校では教職員全体がてんかんに対する正しい理解をもち、不安や悩みを抱えている保護者と話し合いの機会を設けててんかんに関する情報(てんかん発作の症状、抗てんかん薬、発作の危険度、治療状況等)や緊急時の連絡方法などについて共通理解を図っていくことが必要です。また、担任は指導場面で想定されるてんかん発作の症状や抗てんかん薬の副作用等に対する正しい知識を身につけることが必要です。てんかん

発作の危険には、「てんかん児の生活指導表」や「生活安全地図」などの指導目安を利用していくことで安全な教育指導ができるようになります。担任は、てんかんという病気をもっている他の子ども達と何ら変わることのない一人の成長期の子どもとして肯定的に捉えて接することが大切です。同時に、学級内の他の子ども達や保護者に対してもてんかんをもつ子どものことを正しく理解してもらうように心がけることが必要です。てんかんをもつ子どもに対しては、学校だけではなく病院や家庭の機能を十分に活用していくことで適切な発達援助が達成できます。

最後に、てんかんと発達障害についてお話しします。てんかんをもつ子どもの中には、自閉性障害やアスペルガー障害などの広汎性発達障害が15~37%、AD/HD(注意欠陥多動性障害)が14~40%合併しています。当院の療育指導では、発達障害と診断されずに子どもが適切な教育的対応を受けていなかったり、家族が行動面への対応に苦慮して必要以上に子どもを叱責したりして悩んでいることがみられます。発達障害が疑われるてんかんをもつ子どもは、できる限り早期にてんかん専門医による診断を受けることが必要です。以上のようなてんかんをもつ子どもに対する特別な教育支援がなされることにより、てんかんをもつ子どもにおいても豊かな人格の形成が図られるものと思われます。

今回のセミナーの参加者に講義後にアンケートを実施したところ、「てんかんについて正しい知識を持つ良い機会になりました」「とても分かりやすい講義でした。是非続けて頂きたい」といった意見が出され、総じて好評でした。てんかんの啓発を目指す研修セミナーとして、今後も多くの専門職の皆様にご理解頂けるように努力して参りたいと思います。

(発達支援室主任 杉山修)

検査
ミニ知識

凝固検査

凝固検査とは、血液中の凝固因子の機能を調べ、血管の損傷などで出血した場合に、どの程度体の中で止血の働きをしているか調べる凝固検査（出血時間、プロトロンビン時間など）や経口抗凝血薬（ワ-ファリン）療法のコントロールとなるトロンボテストがあります。血管が傷つくと、その部分に血小板が集まってきて傷口を塞ぎます。次に、血液中の様々な因子の連携プレーイによってフィブリンという線維が形成され塊になり、止血が完成します。この連携に参加する物質を凝固因子といい、そのほとんどが肝臓でつくられます。そしてそのうちのいくつかはビタミンKの助けを借りてつくられるため、肝臓の機能が悪くなったり、ビタミンKが不足したりすると正常な凝固因子が少なくなり、この連携がうまく進まない血液が凝固しにくくなります。凝固の機構には、ケガをして血管が破れたときなどに止血の働きをする「外因系」と血液をスムーズに流すために常に血管をベストの状態にする血管内皮細胞の保護機能血管の保護をおこなう「内因系」があります。

また、凝固過程によってできたフィブリン塊を分解する機構を、線維素溶解（線溶）といいます。この過程に

もいくつかの因子が関与しており、この分解によって産生される物質を総称してFDP（フィブリン分解産物）といいます

よって、凝固検査の目的は、次のようなものがあります。

凝固線溶系の病態の把握

出血が止まりにくい方に手術をすると大変なことになってしまうので、手術前の検査として重要です。またDICの診断にも用いられます。

血栓治療効果の確認

血栓が原因で起こる病気には、心筋梗塞・脳梗塞などが代表的ですが、この血栓を予防する薬の効果を確認する。

先天性凝固因子欠損症の診断

代表的なのが血友病です。APTTは血友病診断のために考えられた検査法です。

その他

凝固因子の大部分は肝臓で生産されています。このことから肝機能検査のひとつとして利用されることがあります。またビタミンKはその凝固因子生産に欠かせないものです。

（臨床検査技師 佐倉裕二）

病棟紹介 A3 てんかん成人・脳外科病棟

A3（脳外科）病棟に入院される患者様は、子供から成人まで幅広い年齢層です。主な入院目的はてんかんの診断およびてんかん発作の治療である手術と薬物調整です。病棟では『疾患や薬について』患者様の個性に合わせ、また患者様と共に理解を深められるよう努めています。てんかんの他病棟と比較して病棟活動はありませんが、その分できる限り患者様と接する時間を持つように心がけています。

外科治療の段階

ステップ

手術が可能か、ステップが必要かを検討する段階

日常的には生活リズムを整えることができるように、特に子供の患者様には、洗面・更衣などの声かけや、検査がスムーズに行えるよう援助しています。

ステップ

ステップの結果で発作を起こす部位がはっきりと決められない場合に、長時間頭蓋内脳波記録を行います。脳室からでることができない、また電極の重みで肩が凝ったり、長期間入浴ができない事などのストレスに対して清拭時にマッサージをしたり、テレビ・ゲームを設置。話の相手となりストレス軽減に努めています。

ステップ

最終目的の切除手術の段階

手術対象の患者様に対しては、初めて手術を受けられる方が殆どで不安一杯の気持ちが伝わってきます。少しでもその不安を取り除いていけるように話を聞く機会を多くし、また必要に応じて医師との面談ができるように機会を設けリラックスできる環境を提供しています。

（新人看護師 金丸智美）

薬局より

アルコールが抗てんかん薬に及ぼす影響について

古来より、お酒は百薬の長とされ、適度な摂取は、疲労の回復やストレスの解消にも役立つといわれています。しかし、薬を服用している人にとっては薬の効果に影響を及ぼすことがあり、注意が必要になることがあります。

抗てんかん薬も例外ではなく、アルコールを摂取することで影響を受ける可能性があります。アルコールと抗てんかん薬はどちらも中枢神経抑制作用を有します。同時に飲むことにより、両者による中枢神経抑制作用が重なって眠気、ふらつき、眼振などが強く出る可能性があります。また、アルコールと多くの抗てんかん薬は肝臓に存在する酵素により分解されます。抗てんかん薬とアルコールを同時に飲むと、この酵素は先にアルコールを分解しようとするため、抗てんかん薬の分解が遅れてしまい、血中濃度が上昇し、副作用が強く出る可能性があります。



慢性的にアルコールを摂取する人では、アルコールを分解するために肝臓の酵素の量が増加した状態になります。このような状態で、抗てんかん薬を服用すると、薬の分解が通常よりも速くなり、血中濃度が低下し、発作につながる可能性があります。慢性的に大量のアルコールを摂取している人で、フェニトインの血中濃度が約50%に低下したという報告があります。

以上のことから、薬の安定した効果を得るために、当院では、抗てんかん薬を服用している患者様にはアルコールの摂取を控えていただくように話をしています。（薬剤師 野口祥紀）

新しい薬が世に出るまで（3）

4. インフォームド・コンセント

インフォームド・コンセントとは、患者さまが治療を受けるに当たって、医師等から十分な説明を受け、説明の内容をよく理解して納得した上で、患者さま自身の自由な意思で治療を受けることに同意（承諾）するという意味です。これは通常の治療でも必要なことでありますが、特に治験においては研究を伴う試験的な側面があるために、参加していただく患者さまの人権や安全に十分に配慮する上で欠かすことのできない重要なステップです。治験の詳しい説明は、医師や治験コーディネーター（CRC = Clinical Research Coordinator: 治験を円滑に行うために、患者さまと医師の間の橋渡し役、製薬企業等との連絡役の中心となる専門スタッフ）から説明文書を用いて行われます。わからない点や疑問点などについてはどんなことでも遠慮なくお尋ねください。十分に理解できましたら、治験に参加するかしないかを、患者さま自身の自由な意思で決めてください。治験に参加いただける場合には、同意文書に署名をいただくこととなります。また、説明を受けたその場ですぐに決める必要はありません。同意文書を持ち帰ってご家族などと十分に相談していただくから決めていただくこともできます。同意されなかった場合でも、その後の病気の治療を続ける上で不利益

な扱いを受けることはありません。さらに、いったん同意した後でも、いつでも自由に取りやめることができます。なお、その場合でも、その後の病気の治療を続ける上で不利益な扱いを受けることはありません。

5. プライバシーについて

患者さまが治験への参加の同意文書に署名することによりまして、治験を依頼している製薬会社の関係者、治験審査委員会および国の機関（厚生労働省など）の担当者などが、治験に参加された患者さまの病院での医療記録（カルテなど）を閲覧することに承諾されたこととなりますが、その場合であっても患者さまのプライバシーは完全に守られます。

6. おわりに

現在当院では、てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー型認知症および筋萎縮性側索硬化症などの患者さまが治験に協力していただいております。今後、実際に医師から治験への参加に協力を求められた場合は、その治験について十分な説明をお受けになり、治験に参加されるかどうかを自分自身の自由な意思によって判断していただければよろしいかと思います。さらに詳細な説明をお受けになりたい時には、是非治験管理室にご相談ください。

（治験管理室 服部昇二）



REHABILITATION

リハビリテーション科のご紹介

神経難病のリハビリテーション

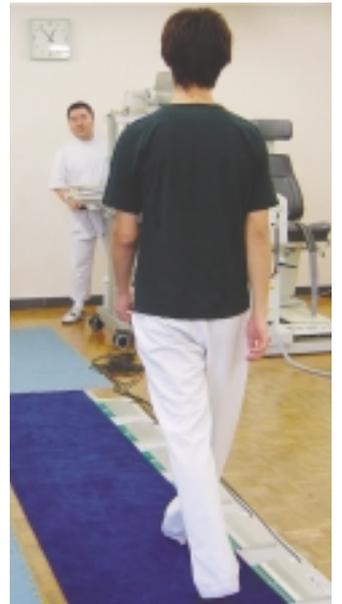
ここでは、神経難病のリハビリテーションについて出来る限り解りやすい言葉で紹介しようと思います。まず、神経難病とはどんな病気なのでしょう。この神経難病の“神経”の部分ですが、これは何も昔から言われているような「神経が参っている」「神経を使う」「神経質」こういう使い方での“神経”ではありません。ここでいうところの“神経”というのは飽くまでも医学的な意味での神経です。心の病という訳ではありませんのでお間違い無き様お願いします。しかし、実のところ神経難病には、解りやすい明瞭な定義はありません。少し難しい話になってしまいますが、一般に神経組織に原因がはっきりしない障害が起こり、それが徐々に進行することで日常生活に支障を来す病気、未だ根本的治療法が確立されていないものとされています。ただ、これを一般の方が判断するのは無理ですので、例えば「最近転びやすくなった」「頭痛が続く」「めまいがひどい」「食事の際のむせが多くなった」など、“理由は解らないけれど何かおかしい”という症状がありましたら、まず神経内科の診察を受けてください。

神経内科とは、主に脳や脊髄、末梢神経や筋肉の障害によって起こる様々な病気を対象とする診療科です。身近に起こる症状から、急を要する症状まで幅広い患者様を対象としますし、必要であれば他の診療科も紹介しますので、原因がはっきりしない何らかの症状がありましたら、早めに診察を受けてください。その上で、治療が必要と診断されたら…。

お薬による治療が行われると共に患者様と相談の上で、医師が必要と判断すれば治療の一環としてリハビリテーションが始まります。ここでいうリハビリテーションとは、単に病気を治療するという意味だけではなく、患者様の普段の生活が少しでも楽に、或いは便利になるように環境を整えるお手伝いをするという意味も含まれています。そして、それは患者様一人一人の状況に合わせた内容で実施さ

れます。最近歩きにくくなった、という訴え一つとっても“何故歩きにくいのか”は人それぞれです。足の力が弱くなったためかも知れませんし、バランスがとりにくくなったためかも知れません。ひょっとしたら足首の動きが悪くなったため、という理由かも知れません。この原因を医師と共に明らかにし治療を行います。環境を整えるという部分では、例えばご自宅で生活される上での適切な補助機器の紹介・使用法の指導やその設置までのアドバイスを行うといった活動も行っています。また、食事の際のむせ等が多い場合には適切な食物の形態の指導や、楽な姿勢の指導等も患者様のニーズに合わせて行います。当院のリハビリテーション科ではこれらの活動をPT・OT・STが他の様々な職種と力を合わせて患者様をサポート致します。その実際は…次回以降のこのコーナーで説明させて戴きます。

(運動療法主任 楠川敏章)



療育指導室 便り

始めましょう

療育指導室では、てんかん小児病棟の入院患者様を中心に療育指導を行っています。指導は、集団指導と個別指導がありますが、今回は集団指導の中の「りすグループ」について紹介して行きたいと思います。

「始めましょう」、みんなで声をそろえて挨拶をすることから始めています。1グループ4～5組の親子が参加して行っていますが、みんなのお名前を呼び合うことも大切な課題です。体調や検査のためお休みとなる子もいて、時々1組の参加しないこともあります。やっぱりたくさんのお友達と一緒にやる方が楽しいですよ。

りすグループは、「揺れ」を中心とした感覚刺激を使って遊ぶことを主に行っています。揺れる遊びというと、何を想像しますか？ このグループでは、パラシュート、トランポリン、バルーン、シャワーボール等を使って行っています。「パラシュート」は、直径5メートル程の大きな布でできています。その真ん中に子供さんが乗りゆっくりと左右に引いてあげて遊びます。背中から伝わるムズムズ感と左右に揺られる感じが良いみたいです。また、みんなの上でふわふわと動かしたりドームを作って遊ぶこともあります。「トランポリン」は、ご存じの通り乗ってジャンプします。シートの上に寝てやってもらったり、お母さんや先生に抱っこしてもらったり、中には頑張っで自分で立って行う子供さんもいます。

それぞれ自分の好きな乗り方で、楽しんでいます。「バルーン」は、直径1メートル以内の小さな物を使用し、お母さんと向き合いながら揺らしてもらっています。ゴローンと動いたり、ポンポンと弾んだり、いろいろな動きができます。「シャワーボール」は、プールの中にボールをいっぱい入れてその中に入ります。水とは違った全身への感覚が気持ちいいですよ。そして、このグループでは、床いっぱいに広げたボールの上に板を乗せ、その上に乗ってボートのように滑って遊ぶこともします。前後、左右、回転と色々な動きはジェットコースターのようにもあります。スピード感たっぷりですよ。そして、何よりみんなが大好きなのは、「お母さんのお膝の上」です。膝の上でお馬さんのように揺らしてもらったり、抱っこでゆっくり揺らしてもらったり。中には気持ちよくて眠ってしまう子供さんもいます。

挨拶、呼名、始まりの歌、抱っこでの揺らし、パラシュートやトランポリンなどの道具を使った遊びを2種類ぐらい、これだけの課題を約45分ほどの時間で行います。いろいろな刺激を全身に受け、楽しい表情や活発な動きがたくさん出せるように頑張っています。皆さんも、一度揺れに来てみませんか？

(保育士：藤森潮美)

制度を利用するときのポイント

1. どんなことに困っているのか、またどのようにしたいのかを整理する。
わからないときには制度利用経験者やソーシャルワーカーに話してみましょう。
2. 自分から相談、手続きに行く。
困っていることは自分にしかわかりません。自動的に使えるようにはなりません。
3. 申請窓口で、どのようにしたいのかをはっきり伝えましょう。
制度ごとに申請窓口は違います。制度の正確な名称を伝えましょう。わからないときには相談しましょう。
4. 制度の内容を確認し、利用するとどのようになるのかを考える。
条件や内容をよく確認しましょう。
その制度を利用すれば困っている問題が解決しそうですか？ 解決しない時には他の方法があるかもしれません。
5. 申請窓口で手続きの仕方や申請に必要なものについて確認する。
印鑑は忘れずに。必要な書類などはメモをしましょう。



(医療福祉相談室)

再来診療のご案内

てんかん科

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
第1診察室	中村	中村	中村	中村						
第2診察室	久保田英	久保田英	脳外科	脳外科	臼井桂	臼井桂	久保田英	久保田英	脳外科	脳外科
第3診察室			脳外科	脳外科	井上	井上			脳外科	脳外科
第4診察室	芳村	芳村			日吉	日吉	芳村	芳村	日吉	日吉
第5診察室	池田仁	池田仁	久保田裕	久保田裕	久保田裕	久保田裕	寺田清	寺田清	寺田清	寺田清
第6診察室			四家	四家						
第7診察室							山崎悦	山崎悦	大谷	大谷
第8診察室	下村	下村	下村	下村	藤原	藤原	今井	今井	今井	今井
第9診察室	重松	重松	高橋	高橋			高橋	高橋	重松	重松

午前の診療時間は8:30 - 12:00 午後の診療時間は13:00 - 16:30

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	溝口	寺田達	溝口	馬場国	溝口
第11診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約ができない場合は午前中にお越しください。

Guidance

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行うために、医療連携室を設置しています。ご利用ください。

担当：森

電話：054-246-4580

Fax：054-246-4607（専用）

Email: renkei@szec.hosp.go.jp

休診日及び時間外は、

TEL: 054-245-5446（代）

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、医療連携室にお問い合わせください。

編集後記

暑かった夏も過ぎ、食欲の秋となりました。今回のあかりはいかがでしたか。読者の皆様に読みやすいようにと文字を少し大きくしました。一人でも多くの方々に読んで頂けるよう今後も工夫していきたいと思えます。あかりについての御意見をお待ちしています。次回14号もお楽しみに。

編集人：広報誌編集委員会

井上有史、寺田清人、岡田英子、豊泉三枝子、
佐倉裕二、児玉和久、緒方栄司、堀田真子、
中澤光代、長田英喜

発行：平成19年10月20日

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

Tel: 054-245-5446 Fax: 054-247-9781

<http://www.shizuokamind.org>

Email: shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

診察は予約制になっています。

1 受診のための手続きは...

予約は、ご本人・ご家族から当院医療連携室（054-246-4580）へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

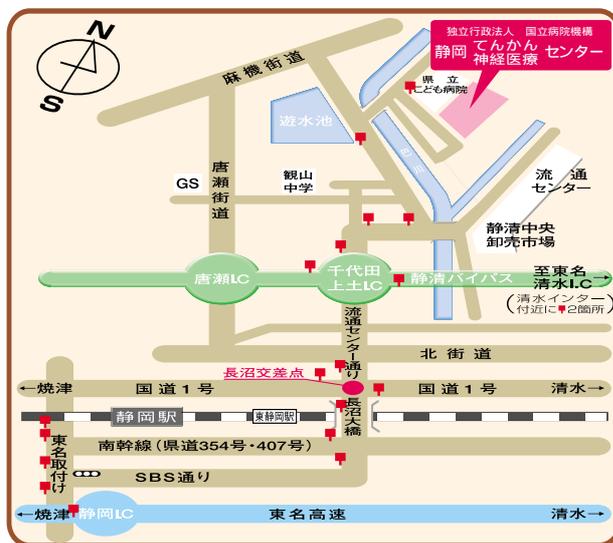
現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用（2,625円）がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は...

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡下さい。

access 当院へのアクセス

バスをご利用の場合	JR静岡駅前、北口バスターミナル2番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・国立神経医療センター」行に乗車、終点の「国立神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人350円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2200円程度
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
	東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。



イベント情報

専門職のためのてんかんセミナー（てんかんをもつ成人に関わる専門職対象）

平成20年2月頃

於：静岡てんかん・神経医療センター 3階講堂

詳細はホームページをご覧ください

てんかん医師研修セミナー（若手小児科医師対象）

平成20年1月頃

於：静岡てんかん・神経医療センター 3階講堂

詳細はホームページをご覧ください

本

やさしい「てんかんの自己管理」ポケット版（八木和一著、医薬ジャーナル社、2006年）

副題は、本人と家族のために、となっていて、手のひらサイズです。病気や病気への取り組みについて、やさしい解説がしてあります。

小児てんかん診療マニュアル（診断と治療社、2006年）

当院のスタッフが総掛かりで仕上げた小児てんかんの教科書です。

難治性てんかんの外科治療プラクティカル・ガイドブック（難治性てんかんの外科治療プラクティカル・ガイドブック）

てんかん外科治療の最新教科書。当院のスタッフも執筆しています。

アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む（診断と治療社、2007年）

てんかん診療に欠くことのできない脳波の判読法についてわかりやすく解説した教科書です。

当院のスタッフが編集・執筆しました。